

[編集後記]

第82巻1号をお届けします。編集委員一同が丹精を込めて作り上げたこの2006年の最初の号をどうぞお楽しみ下さい。掲載順に内容を少し紹介させていただきますと、以下のようになります。

1. 「千葉医学会学術大会のご案内」: 本年6月6日(火)に千葉大学医学部附属病院で開催されます。今回は「漢方医学」がメインテーマであります。特別講演の演者は杏林大学名誉教授の鍋谷欣市先生で、演題は「恩師に学んだ東洋医学の手習い草紙とその展開」であります。招待講演の演者は本学和漢診療学教授の寺澤捷年先生で、演題は「漢方医学の普遍性を如何に担保するか-異なったパラダイムの和諧を求めて-」であります。大会終了後に懇親会も予定されていますので、多くの皆様の御参加をお待ちしております。

2. 「総説」: 今回は「幹細胞」に関するものと「免疫応答」に関するものの2題であります。前者は本学医学研究院細胞分子医学の岩間厚志教授らによるもので、「Sox2 遺伝子と幹細胞の自己複製機構」というタイトルです。世界中で今最も関心を集めている幹細胞に関する研究の一つです。「幹細胞生物学」の最先端をエンジョイして下さい。後者は本学医学研究院遺伝子制御学の中島裕史教授によるもので、「Th2 型免疫応答におけるIL-25の役割」というタイトルです。気管支喘息の本態であるアレルギー性気道炎症の病態形成に中心的な役割を担っているTh2細胞の免疫応答に関するもので、アレルギー性疾患治療を目指す最先端の研究をエンジョイして下さい。

3. 「講座」: 今回は「東金の老湖先生」というタイトルで、本学医学研究院循環病態医科学の石出猛史先生によるものです。幕末から明治にかけて現在の東金市に在住した医師であり、漢学者・教育者である吉井宗元先生の足跡をまとめたものです。石出先生の力作のひとつであります。「総説」で世界の最先端の医科学に触れた後は、この「講座」で、約170年ほど昔にタイムトラベルしていただき、「東金の老湖先生」の生き様に触れていただき、温故知新といきましょう。

4. 「原著」: 今回は本学医学研究院視覚病態学の

Zhang氏らによる英文原著で、「緑内障の視野異常を短時間で高感度に検出する新しい視野計」に関するものです。タイトルは、“Effect of cataract or glaucoma surgery on frequency doubling technology perimetry in patients with glaucoma”であります。是非、ご参考になさって下さい。

5. 「症例」: 今回は山王病院感覚器病センター眼科のHanawa氏らによる英文症例で、タイトルは、“Changes of magnetic resonance images during treatment of orbital pseudotumor”であります。貴重な臨床所見が記載されています。きつとお役に立つと確信しております。

6. 「研究紹介」: 千葉大学医学研究院の各教室の研究を紹介するコーナーです。学外の先生方には勿論の事、学内の先生方にも「隣の教室でこんな興味深い事を研究していたなんて大変驚いた。」云々と大変好評です。各教室間で新たな共同研究がスタートし、研究活動の活性化につながれば幸いと思っています。今回は7教室(環境生命医学、感染生体防御学、発生物学、免疫発生物学、整形外科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学)の紹介です。学外の先生方でも研究・診療等の紹介をしてみたいと思われる方は、是非編集事務局(電話043-202-3755, 担当: 高橋 薫)まで御連絡下さい。

7. 「学会」: 今回は細胞治療学例会が掲載されております。今どんな所が一番注目され、熱心な研究が行われているのかを正確に知るには大変便利なコーナーです。是非、ご活用下さい。

8. 「投稿規定」: 編集委員会で討議した今年の新しい投稿規定を掲載しました。ぜひ、ご参考にしていただき多くの皆様の投稿をお待ちしております。ご質問等が有りましたら、遠慮なく編集事務局(電話043-202-3755, 担当: 高橋 薫)まで御連絡下さい。

今年も読者の皆様に少しでもお役にたてる情報をタイムリーに発信できますよう、編集委員一同精進努力いたしますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

(編集委員長 野田公俊)